

2021年度通常枠 休眠預金助成事業 申請団体一覧表

認定NPO法人北海道NPOファンド

(順不同)

No	申請団体	所在地	申請事業の名称	事業概要
1	株式会社イトイグループホールディングス	士別市	総合型地域スポーツクラブ創設による新しい時代の学びシステムの構築 一部活動の変革時代へ向けた担い手創出による民間教育づくり	スポーツ庁では、平成30年より運動部活動改革を進めており、令和5年度からは教員による土日の部活動指導はできなくなるなど、子どもたちを取り巻くスポーツ環境は大きな変化を迎えています。 また、士別市では子どもの数が2010⇒2020の10年間で36%(2582人⇒1653人)と減少する中で、スポーツチームも減少傾向が顕著となっており、スポーツ種目選択の機会も減少しています。 こうした状況の中で、多様なスポーツ種目環境(野球、スキージャンプ、eスポーツ、チアリーディングなど)と、バルシューレなどの新しいスポーツ理念を取り入れ、子どもたちのスポーツ環境を新しい時代に沿った形で提供する民間教育を実現します。
2	NPO法人ぱりずむ	旭川市	遠隔支援を活用し「地域をつなぐ」「地域を活かす」「人材を育てる」 理論と臨床と実践を現場につなぐプロジェクト	理論と臨床と現場と行政をつなぐ取組を行う。広大な北海道の地域性を考慮し遠隔支援体制を構築する。具体的には①学習障害及び不登校児、医療ケア児などへのオンライン・対面ハイブリットの学習サポート塾の開設②認知特性を理解するアセスメントおよび面談の実施とアセスメントを活かした支援及びコンサルテーション活動(相談事業) ③北海道という自然豊かな大地を活かしたキャンプや登山などアウトドア活動の実施。④野球チームの運営を通じたスポーツの活動推進⑤オンライン・対面ハイブリット方式による事業関連を主題とした各種講演会・研修会、対談講演会、専門家向け講座の開催。⑥当事者運営による音楽や雑貨販売、フリーマーケット等就労準備に向けたイベントの実施、就労体験の実施。
3	NPO法人まおい学びのさと	長沼町	まおい学びのさとプロジェクト 一体験重視の小学校を拠点とした包括的学習支援体制の構築	本事業の目的は、体験を重視した学習機会の拡充に向けた包括的な支援体制を構築することである。2023年4月、当団体の支援する私立の認可小学校が、北海道長沼町の廃校舎を活用して開校する予定である。本事業では、この学校の教育が「まおい」(長沼町)全域で展開することで、地域が子どもの学びを面的に支える「さと」となり、子どもが自らの手で進路を開拓していく力を養う環境となることを目指している。その先には、学校の再生を通じた地域活性化モデルとして他地域への波及を見据えている。
4	NPO法人手と手の森	旭川市	「なりたい自分」の選択視野を広げる動物介在教育事業 ー「人・動物・自然の共生」の視点から子どもを育み、地域を伸ばすー	旭川市で「人にもどうぶつにも優しい街」を目指し活動してきたNPO法人 手と手の森が、動物や自然の専門家と連携し、地域ぐるみで動物と人間の幸せな関係を体験的に学ぶプログラムを展開する。①「命とは何か」を学ぶ動物介在教育活動、②酪農に関わりながら産業動物のアニマルウェルフェア(動物福祉)を考えるワークショップ、③大雪山系を探検し野生動物を五感で感じる自然教育を実施する。 動物をテーマにすることで子どもの主体性を引き出す。また、多様な人や仕事と連携し、地域には様々な選択肢があることを子どもと共有する。 これらを通し、子どもが「この街で自己実現できる」と自ら思い、主体的に関われる地域社会にすることを目的とする。
5	一般社団法人かやぶきの家まねきや	北斗市	かやぶきの家と縄文畑の多世代交流活動事業 「冒険あそび暮らしの地域コミュニティづくり」	当団体は広域における「多世代交流型放課後児童クラブ」として2020年3月、活動開始した。子どものあるがままを受け止め、受け入れそのまま居られる仲間や場所づくり、暮らしづくりを目指している。拠点であるかやぶきの家まねきやの「伝統的農村住宅建築物保存修復再生」と併せて二本柱の事業を展開している。
6	NPO法人くるくるネット	室蘭市	人口減少都市での居場所作り・室蘭こども未来推進協議会立上げ ー室蘭の子どもの未来を考える新しい取り組みー	・室蘭市にて、居場所・子ども食堂を開所、運営 居場所・子ども食堂は週3回運営。大学生スタッフによる学習支援や異年齢間がコミュニケーションする場を継続的に3年間開催。対象は、居場所が小・中・高生。子ども食堂は地域住民。 ・地域の小中学生に減災・防災教育 避難所体験・防災マップの作製・炊出し訓練を行い、地域の役に立てたことを実感できるプログラム。3年間開催。対象は、小・中学生。 ・室蘭こども未来推進協議会立上げ 地域住民、居場所・子ども食堂・防災教育に参加の親、室蘭市教育委員会、室蘭市、地元事業者をメンバーとする。地域ぐるみで学びについて議論し、学び会える環境づくりと体制の構築。3年間開催。
7	一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ	札幌市	SDGs・環境教育ワークショップ「宇宙船地球号ミッション！」 子ども及び若者たちに、課題解決に必要な学習と対話の機会を提供する	未来を担う子どもたちが、地方に居ても都市部と格差なく、自らの思い描く将来や持続可能な地域社会の実現に向けて自発的な行動を取れるようにする。そのために地球規模の循環の仕組みを切り口として、そこから自分の居住する地域社会の持続可能性に目を向け、考え、実践する連続形式のワークショップを小中学生を対象に行う。 異なる意見にも耳を傾けながら、話し合いをする対話の練習を含むこのワークショップを軸としつつ、参加者がワークショップを振り返るとともに、地域の課題について対話する恒常的な拠点「カフェ&ラボ アジール」を立ち上げ、さらにこれ

				らを継続的に開催するための地域分野横断の協議会「SDGsアジト」を構築する。
8	一般社団法人ちくだいKIP	中札内村	スポーツ・芸術等の機会格差是正事業 月1ホンモノから学ぶ「多項目×スペシャリスト」体験	過疎地域において、小学生を対象にスポーツや芸術等の「多項目×スペシャリスト」による無料体験イベントを開催する。頻度は毎月1回の開催を目指す。各種目の楽しさを全面に押し出し、子どもの興味を引き出すことを目的とする。スペシャリストの招聘によってホンモノを見て感じる子どもたちの心の動きを重要視するために、毎回子どもたちからのリアクションペーパーを集め、地域の大人にリアルタイムに共有する。子どもの成長やその地域における機会格差に潜む社会課題も同時に確認しながら事業を進めていく。一方、ちくだいKIPがこれまでに蓄積してきたエビデンスを導入することで、頻度は低いながら体力向上にも寄与したい。
9	株式会社あしたの寺子屋	札幌市	地方の子どもの選択格差を解消するモデルの構築 第3の居場所と多世代交流プログラムの相乗効果による地域教育エコシステムの構築	地域住民主体で運営する常設の学び場(こども食堂・ゲストハウス等と併設した学び場)を通じ、地域の子どもたちに日常的に寄り添い、世界を拓げるための取組を行います。また、そのような学び場をより一層活性化するために、地域外の多様な大人が関わる機会を設け、地域の子どもたちの選択肢や可能性をさらに拓げることを目指します。このような取組を行うことで、子どもたちの「主体性」「自己決定力」「自己有用感」を醸成することに加え、地域内外の多様な関係者(教育団体、民間事業者、地方公共団体、保護者等)を巻き込んで子どもたちを支える体制・仕組みづくりを行い、魅力ある教育環境を長期継続的に実現します。
10	新冠町商工会	新冠町	地方情報不足解消、体験プログラムを通じた子ども非認知能力向上～地方人材流出を改める魅力ある地方教育創出とふるさと愛着度向上	当地域において、子どもの都市部と地方の教育格差や情報不足、体験や知見を広げる機会の不足解消と職業選択の格差を縮めるよう、職業観の幅や知見を広げることを目的としたプログラムの設定を行う。ターゲットは地域の小中学生だが、地域の高校生も参加する職業体験やチャレンジショップ、若者による地域魅力の再発見や磨き上げによる、自己肯定感や有用感を育む。本事業のプログラムを通じて、当地域でも多くの若者が就業目的による都市部への流出があるが、古郷での就業の魅力や創業促進に繋げ、都市部流出を抑制し、学生と地域が共同した地域活性化ロールモデルを構築し、地方の存続モデルとなりうる事業とする。
11	もんべつ海の学校	紋別市	海の学びから地方の学習機会を拡充、選択格差解消プロジェクト ～「海で働く」という選択視野を広げる地域教育～	この事業は、地方の子供達に学習する機会を地域全体で創出し、オホーツクの海を学びながら、地球環境の変化、科学的思考・課題解決の楽しさを学ぶ、海洋調査のプロが教える「海洋教育」である。 北半球で最も南に位置する凍る海“オホーツク海”。平均気温や水温は上昇傾向、流氷勢力(日々の氷量の積算値)は減少傾向にある。科学に裏付けされた資料や最新の知見をクイズやゲームを混ぜてわかりやすく解説する。 海洋調査・分析の疑似体験を通じ、オホーツク管内の子供達に学習機会を創出、「地域に貢献したい」と思える子供を増やし、自分の将来像に「海」という選択肢を加えていただけるよう活動する。
12	NPO法人いきたす	札幌市	道内複数拠点における小中高ネットワーク型、探究心を育む地域と学校をつくる	若手育成プレーヤーを育成していくプロジェクト。こども家庭庁の創設や地方における子どもの減少に伴い、こどもを育てる環境構築に若きプレーヤーが必要な社会となっている。この動きは従来型の教員育成とは明らかに違う文脈であり、行政や民間でこれらの分野でのエキスパートを育てていくような環境が整っていない。今回提案する事業は、道内5地域3拠点(千歳・安平、上士幌、福島・函館西部地区)+アルファ(今後関係が生まれる地区)を舞台に20代～30歳前後のプレーヤーを軸に、そこへ大学生や高校生世代が、「仕事をしてみたい」と思われるような、新たなエッセンシャルワーカーのシステムを生み出すことを目標とする。
13	一般社団法人集落自立化支援センター	西興部村	食×学び×地域×協働＝学びあうひとが育ち集う村 地域が学びあう中で子どもの自己評価を多様化させる	西興部村における社会課題は、固定的な人間関係のために地域で暮らしてゆくイメージが子どものなかで描かれず、学習をはじめとしたさまざまな活動にやりがいを感じられていないことである。これに対し、当団体は人材育成拠点での取組を通して課題解決に当たってはきた。しかし、より多くの地域住民が地域内の取組を理解し協働するための仕組みづくりには着手できていない。そこで本事業では、人材育成拠点と補完的な役割を担う交流拠点を新たに整備し、教育以外の機能による集客を見込むことによって子どもを見守る眼差しを多様化させながら、子どもがロールモデルを見つけたり地域に愛着を持ったりできる場を作ることを目指す。
14	フラヌイコロ	富良野市	スコーレフラヌイ 「誰一人取り残さない」を本気で実践しよう	・行政の事業の狭間の人にも届く寄り添い活動ができる場所、拠点を作る。不登校児も増えているが、学校、自宅、行政の適応指導教室以外の選択肢がないことや、狭い街なので、「行った先で知り合いに会いたくない」という気持ちを持ってしまう子もいる。できるだけ、一人一人の気持ちに寄り添い、多様な活動ができる拠点を増やすことを目指し、活動していく。大人同士のつながりも作っていき、共に学び、対話を大事にしながら、孤立化の解消に向けて取り組む。 ・全ての活動の基本に、子どもの権利条約の理念を置き、進める
15	NPO法人キーパーソン21(チーム北海道)	神奈川県川崎市	北の星★未来創造 WAKUWAKU大学プロジェクト 「わくわく」でつながる、ひろがる。	子どもたちが環境に左右されず、自分軸で持続可能な未来を創造する力を育むことに焦点をあてた。主な対象は、北海道で最も震災被害のあった厚真町に住む小学5年生～中学2年生の全158名とし、札幌市内フリースクール及び公立中学校に通う他地域同世代の小中学生との交流も図る。当団体オリジナルの概念である「わくわくエンジン」＝「一人ひとりが主体的に動き出す原動力」をベースに、子どもたちが地域で活躍する大人と出会い、つながり、感性を磨きながら、自分を「知り」「考え」「行動する」ことができる「北の星」となる子どもの育成、そして、それを心から応援、伴走し、真の復興をも実現する新しい地域

				循環型モデルをつくる。
16	一般社団法人みらい創造なかしべつ	中標津町	<p>ゲストハウスとコワーキングスペースを活用した、旅人と地域の子どもたちとの交流を創出する活動</p> <p>多様な大人たちと出会い、なりたい自分の将来象を描ける地域教育</p>	<p>本事業では、すでに運営しているゲストハウスとコワーキングスペース事業を活かし、旅をしながら地域のお手伝いをしたい大人たちと、対象地域の子供たちとの交流の場を創出する。これにより対象地域の子供たちが、多様な生き方に触れ、人生の選択肢を増やすことを目指す。また自治体、教育機関、地元の民間企業を巻き込んだ協議会を設置し、対象地域の子供たちを包括的にサポートする体制の構築を目指す。</p>
17	ときの森衣食住	札幌市	<p>子どもたちの未来のために かなでる、アンサンブル</p>	<p>自然栽培農法と有機栽培で、安心安全かつ美味しい野菜を育て販売中店加工する事業を柱に、子育て中の家族のためのコミュニティ、引きこもりがちな子どもたちへの自然交流の場の提供を実施。</p>
18	一般社団法人Ezofrogs	札幌市	<p>居住地や環境による機会格差を解消するEzofrogsアカデミー事業</p> <p>なりたい自分、創りたい未来を創る、未来を生き抜く力を身につける</p>	<p>対象市町村の小中学生を対象に、約5ヶ月間、合計20数回の授業(アクティブラーニング)により、自立した人格を持つ人間として他者と協働しながら新しい価値を創造する、「未来を生き抜く力」を身につけることを目的としている。</p> <p>具体的授業内容は、「世界の課題・SDGs」「DQ(デジタル知能指数)」「お金」に関するワークショップや、社会・地域課題を解決するためのサービス構築体験(考え、企画し、市場調査も行う)、プレゼンテーション研修なども入れ、ラストは最終成果発表会を実施する、スケジュールを想定。</p>